年間授業計画

成瀬　高等学校 令和７年度（１学年用） 教科　芸術　　科目 音楽Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　音楽Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　7 組

使用教科書：（ 音楽Ⅰ　Tutti＋　　）

教科　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】表現・および解釈に必要な知識と、基本的な演奏技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、根拠をもって評価・判断し、次段階の表現につなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組もうとしている。

科目　音楽Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・基本的な読譜力を身に着ける。 ・基本的な歌唱法を身に着ける。 ・基本的なキーボード・ギターの奏法およびアンサンブルの手法を身に着ける。 ・	・楽譜から求められるべき表現を考える。 ・他人に自分の考えが伝わるように考える。	・様々な表現について、いくつかの可能性を自ら考え、試みることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			歌	器	創						
1学期	＜歌唱＞ 歌唱にかかわる基本的な身体の使い方を復習し、身体に負担なく声を出すことを体得する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 身体の仕組み・身体の使い方を実際に自らの体で理解する。 【思考・判断・表現】 他人の動き方を見て、動きと声がどのように連動しているか考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の身体と表現について関心をもって観察しているかどうか。	○	○	○	6
	＜器楽＞ すべてのジャンルに共通する音楽の三要素のうち、「リズム」に焦点を当てて学習する。 リズム譜の読み方・感じ方・表現方法・他人との合わせ方等、客観的に表現を理解する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○	○	【知識・技能】 リズムとは何かを理解し、楽譜を読んですぐ表現できるようにする。 【思考・判断・表現】 リズムを正しく演奏しているか、リズム感を感じて表現しているかどうか判断しながら表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の表現について様々な角度から考えているかどうか。		○	○	12
	＜鑑賞＞ 鑑賞とは何を聴き取るのか、ポイントについて理解し、実際に聴き取れるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末				○	【知識・技能】 リズムとは何かを理解し、楽譜を読んですぐ表現できるようにする。 【思考・判断・表現】 リズムを正しく演奏しているか、リズム感を感じて表現しているかどうか判断しながら表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の表現について様々な角度から考えているかどうか。	○	○		6
	＜音楽理論＞ 「音楽作品を深く理解するための手立て」としての楽曲構成のあり方を考える。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末				○	【知識・技能】 基本的な楽曲構成について知る。 【思考・判断・表現】 ある曲の楽曲構成が全体の内容を伝えるためにどのように機能しているか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 楽曲構成を無味乾燥な理屈としてではなく、「どのようなよい表現を生み出しているか」という観点から主体的に感じているかどうか。。	○	○		6
2学期	＜歌唱＞ ①1曲を通して、説得力ある表現で歌えるようにする。 ②二重唱について、両パートとも歌えるようにし、相手の音を聴きながら演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 正確な音程・リズムで歌えるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音と自分の出している音が合っているかどうか、バランスはどうか聴いて判断する。 ある曲の楽曲構成が全体の内容を伝えるためにどのように機能しているか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 2人以上で１つの表現を作り出そうと努力しているかどうか。		○	○	12
	＜器楽＞ ①ギターおよびキーボードの基本的な奏法について学ぶ。 ②「他人と合わせる演奏」に必要ことを考え、ギターのみによる２～３人程度のアンサンブルを実践する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○		○	【知識・技能】 正しい身体・手の使い方をし、正しく読譜できるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音を聴き取り、タイミングやバランスがよいかどうかを判断しながら表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数人で１つの表現を作り出そうと努力しているかどうか。		○	○	18
3学期	＜創作＞ ①設定された条件の中で、２～４小節程度の旋律を作ることができる。 ②聴く人の情感に沿った流れのある旋律を作ることができる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末			○	○	【知識・技能】 過去の音楽作品がどのような旋律の作法によっているかを学ぶ。 【思考・判断・表現】 人間の様々な感情の流れに沿った旋律になっているかどうかを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己満足ではなく、聴き手を念頭において作曲しているかどうか。	○	○	○	4
	＜器楽＞ キーボードを中心に、異なるジャンルでのアンサンブルを試みる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○		○	【知識・技能】 楽譜に書いてある情報を正確に理解し、再現できるようにする。 【思考・判断・表現】 キーボードで出せる様々な音色を試行し、曲の性格をより打ち出せるようなものを選ぶ。また、各パートのバランスについて聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の構成を考え、どのようなバランスやアレンジがよいか考える。	○	○	○	14 合計 78

年間授業計画

成瀬　高等学校 令和７年度（１学年用） 教科　芸術　　科目 美術Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　美術Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　7 組

使用教科書：（ 高校生の美術１　日本文教出版　　）

教科　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】表現・および解釈に必要な知識と、基本的な技能を身につける

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、根拠をもって評価・判断し、次段階の表現につなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組もうとしている。

科目　美術Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
描画、造形表現の基礎知識と技能を身につける。	様々な作家の生き方や精神、その表現方法を味わい理解を深める。	自己の内面を見つめ、新たな発見に結びつくような主体的な表現活動を展開する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			絵・彫	デ	映						
1学期	単元　静物画制作 ・道具の扱い方、構造のとらえ方、構図について理解する。 ・コンセプトに合う構図、表現方法を工夫することができる。 ・作品を客観的に眺め、粘り強くより良い表現を追求することができる。	・演習　幾何石膏を描く ・本制作　静物画制作 ・鑑賞　友人の作品	○			○	・道具の扱い方、構図の取り方、物の構造のとらえ方について理解している。 ・自分なりのコンセプトに合う効果的な構図や表現を工夫している。 ・作品を客観的に比較検討し、より良い表現を追求している。	○	○	○	28
2学期	単元　絵本制作 ・絵本の構造、画材の扱い方、製本方法を理解する。 ・自分なりの発想でオリジナルの作品を工夫することができる。 ・作品に愛情をもって読み手を惹きつける表現を追求することができる。	・鑑賞　絵本の鑑賞、分析 ・鑑賞　過去の作品 ・試作本作り ・本文制作 ・製本作業 ・鑑賞　友人の作品		○		○	・絵本の構造、制作手順、画材の扱い方を理解している。 ・独自の主題や世界観を設定し、推敲を重ねてより良い表現を追求できる。 ・鑑賞を活かし、作品に愛情をもって一つ一つの工程に丁寧に取り組むことができる。	○	○	○	30
3学期	単元　自画像油画制作 ・美術史上の画家の自画像と時代背景、人物の構造、画材の扱い方などを味わう。 ・明暗、色相、質感などの対比、画面全体のリズム、バランスを客観的に判断し、より良い表現を追求することができる。 ・真摯に自己と向き合い制作に取り組むことができる。	・鑑賞　美術史上の自画像の比較、分析 ・鑑賞　人物の構造など ・コンセプト、下描き ・本制作　画材の扱い方 ・造形要素について	○			○	・自画像表現の変遷、画材の扱い方について理解している。 ・コンセプトに合う構図、トーン、マチエールなどを客観的に判断し、工夫しようとすることができる。 ・自己と対峙し、人生や生活をより豊かにしようとする意欲をもって制作に取り組むことができる。	○	○	○	18
	単元　水墨画制作 ・水墨と油彩の表現や扱い方の違いを理解する。 ・墨の特徴を活かした表現を追求できる。 ・墨の表現の良さを味わうことができる。	・鑑賞　水墨画家の作品比較、描き方 ・試作 ・本制作	○			○	・水墨画材の扱い方を理解している。 ・水墨表現を活かした絵作りを工夫できる。 ・水墨表現の良さ、豊かさを味わって制作に取り組むことができる。				2 合計 78

年間授業計画

成瀬 高等学校 令和７年度（１学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅰ

教　科： 芸術　　科　目： 書道Ⅰ　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 2 組～ 7 組

使用教科書：（ 教育図書 書Ⅰ ）

教科 芸術 の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】表現・および解釈に必要な知識と、基本的な技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品について、根拠をもって評価・判断し、次段階の表現につなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組もうとしている。

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の特質を理解し、用具用材の特徴と用筆運筆と関係性を実技を通して体得する。書の美の表現を目指し、自らの意思に基づいて構想を練り、それを実現するための技能を臨書活動を通して身につける。	作品や書の伝統とその文化的価値を考え、書の美を鑑賞する資質や能力を育てる。体得した知識技能を生かし深い鑑賞力を身につけ、構想に対する表現の工夫や分析的な思考をより深くする。感じ方や考え方の多様性を自覚し、適切な用語で言語化できるようにする	自身の活動を振り返り見通しを立てながら試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組む姿勢を身に着ける。書の美を感受しながら、生活や社会の中での書や文字の意味や価値を主体的に見出す姿勢を身に着ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	芸術書道を学習するために書道全般の基礎知識の確認と理解を深めて芸術的視野を広げる。	学習内容と用具用材の基礎知識。 書体の流れとその歴史背景との関連。 筆順の大原則・特例・由来及び筆順と文字造形の関連。		○	○	○	用具用材の的確な知識の習得。 漢字五書体と仮名の書体の流れをつかむ。 筆順の正誤の確認と原則・例外の習得。 文字造形における筆順の意味を知る。	○	○	○	6
	書の専門的な事柄の理解させ、よりわかり易く指導・実践する。	楷書の基本用筆及び基本点画。 楷書の歴史。 用具・用材の特性を知る。 用筆・運筆の理解、基本点画の習得。		○		○	正しい執筆法・用筆法・姿勢の理解と実践。 用具用材の活用の理解と実践。 古典を通して、基本結構を習得する。	○	○	○	8
	用筆・運筆と文字造形の関連性の理解。 楷書の文字造形の法則性を理解・実践。 楷書の多様性を知る。	臨書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記 鄭羲下碑		○		○	造形をよく観察し、用筆を工夫しているか。 様々な古典の背景や特色を理解し、的確に表現する。 古典の内容により深く迫ろうとしているか。	○	○	○	14
2学期	線を連続して引く手法の理解と実践。充実した訓練により、高い習熟度の達成。筆脈の貫通した造形の理解。様々な行書の古典を鑑賞し、書風の違いについて関心を持ち、意欲的に表現する。	行書の歴史。 行書の基本用筆・運筆法の理解及び基本点画の習得。 臨書 集字聖教序・蘭亭序		○		○	回し込み・返し、腕法・手法の習得。 筆脈の貫通した造形の習得。 各古典の特色の理解と鑑賞を通して、表現に反映できたか。	○	○	○	16
	単体一文字ごとの基本形と運筆の習得。穂先のあたり・回転の習得。筆の流れによる文字と行の造形の関連の理解と実践。連綿専線の方向と長さ、文字の配置の工夫の重要性の理解と実践。	仮名の歴史。 仮名の用具・用材や執筆と基本用筆法の理解。 仮名の用筆・運筆法の理解と単体の習得。連綿の運筆法・造形の理解と習得。 変体仮名を知る。			○	○	基本用筆と文字造形の習得。 連綿の構成法の理解と運筆の実践。 仮名の特色の理解と、鑑賞を通して表現に反映できたか。	○	○	○	16
3学期	篆刻を構成する様々な要素について理解する。篆刻の多様性を知る。	小品・仮名用の小さな一字印作成。 篆刻の用具用材や奏刀法の理解及び習得。 篆書・検字・草稿・布字への理解。 鈐印法・印泥の取り扱いの理解及び習得。		○		○	正しい奏刀法の理解と実践。 正しい鈐印法への理解と実践。 篆書・篆刻の特色の理解と、鑑賞を通して表現に反映できたか。	○	○	○	10
	紙面統一の方向性を考える。 自由な発想と展開を引き出す。 芸術の意味を考える。	漢字仮名交じりによる創作。 色紙作品を書く。	○			○	用筆を統一し、変化のある構成を図る。 想像力を働かせ、しっかりと構想を練り、推敲を重ねて個性を発揮する。 制作した作品を見直し、自分の進歩・変化を省みる。	○	○	○	8
											合計 78

年間授業計画

成瀬　高等学校 令和７年度（２学年用） 教科　芸術　　科目 音楽Ⅱ

教　科： 芸術　　科　目： 音楽Ⅱ　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 音楽Ⅱ Tutti＋ ）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】基本的な技法や表現方法を復習し、さらに他人と合わせて演奏し、説得力がもてるものとする。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、根拠をもって評価・判断し、新たな段階へ課題を設定できる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、技術面・思考面および聴取面から取り組もうとしている。

科目　音楽Ⅱ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・基本的な読譜力・歌唱法を定着させる。 ・キーボードおよびギターのによるコードネーム奏法を身に着ける。 ・1人で同時に複数の演奏ができるようにする。	・楽譜から求められるべき表現を考える。 ・他人に自分の考えおよび表現が伝わるように、根拠をもって客観的に考える。	・説得力のある演奏に必要な技術・表現が可能になる方法について、自分および他人とのやり取りの中で考えられるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	＜歌唱＞ 歌唱にかかわる基本的な身体の使い方を復習し、身体に負担なく声を出すことを体得する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 身体の仕組み・身体の使い方を実際に自らの体で理解し、言語で状況を具体的に講評できるようにする。 【思考・判断・表現】 他人の動き方を見て、動きと声がどのように連動しているか考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の身体と表現について関連性を考えながら観察しているかどうか。	○	○	○	4
	＜器楽＞ ・ギターの基本奏法を復習し、コードネームの原理と奏法について学ぶ。 ・歌いながらギターのコードネームが演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○	○	【知識・技能】 ギターによるコードネームを正確に押さえ、歌いながら演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 正確な音が響いているかどうか判断し、かつ旋律にふさわしいストロークを考えて表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の音の響きや表現について、様々な角度から講評し、考える。		○	○	14
	＜鑑賞＞ 2つ以上の演奏を比較し、大きく技術および表現の２つにわけて具体的に批評できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末				○	【知識・技能】 旋律や曲の構造を楽譜から正確に理解する。 【思考・判断・表現】 楽譜から読み取った情報がどのように表現されているか、具体的に判断しながら聴く。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現の差異がどのような部分について生じているか、その表現効果について考える。	○	○		4
	＜音楽理論＞ 「音楽作品を深く理解するための手立て」として、歌詞と楽曲構成を合わせて考えられるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末				○	【知識・技能】 自ら楽曲を大きな部分に分け、それぞれの箇所の全体における機能を理解する。 【思考・判断・表現】 楽曲構成が全体の内容と個々の箇所がどのように関連性を持つか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 楽曲構造に沿って説得力のある演奏かどうか、自ら判断できるようにする。	○	○		4
2学期	＜歌唱＞ ・二～三重唱について、相手の音を聴きつつ、響きやバランスを把握しながら演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 正確な音程・リズムで歌い、相手を会わせられるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音と自分の出している音の響き具合や、バランスについて聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数でまとまった１つの表現を作り出すために考え、努力する。		○	○	10
	＜器楽＞ ・キーボードの基本奏法を復習し、コードネームの原理と奏法について学ぶ。 ・歌いながらキーボードのコードネームが演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○		○	【知識・技能】 キーボードによるコードネームを正確に押さえ、歌いながら演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 正確な音が響いているかどうか判断し、かつ旋律にふさわしいアレンジを考えて伴奏する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の音のアレンジについて、様々な角度から講評し、考える。		○	○	22
3学期	＜創作＞ ①設定された条件の中で、２～４小節程度の旋律を作ることができる。 ②聴く人の情感に沿った流れのある旋律を作ることができる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末			○	○	【知識・技能】 過去の音楽作品がどのような旋律の作法によっているかを学ぶ。 【思考・判断・表現】 人間の様々な感情の流れに沿った旋律になっているかどうかを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己満足ではなく、聴き手を念頭において作曲しているかどうか。	○	○	○	4
	＜器楽＞ キーボード・ギターを中心に、メロディをコードネームを必須としたアレンジによるアンサンブルを試みる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○		○	【知識・技能】 楽譜に書いてある情報を正確に理解し、再現できるようにする。 【思考・判断・表現】 キーボードで出せる様々な音色を試行し、曲の性格をより打ち出せるようなものを選ぶ。また、各パートのバランスについて聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の構成を考え、どのようなバランスやアレンジがよいか考える。	○	○	○	16 合計 78

年間授業計画

成瀬　高等学校 令和７年度（２学年用） 教科　芸術　　科目 美術Ⅱ

教　科： 芸術　　科　目： 美術Ⅱ　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 美術２　光村図書 ）

教科　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】表現や鑑賞に必要な知識や、基本的な技能の幅をさらにひろげる。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、客観的に評価・判断し、表現を深めることにつなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組み、味わおうとしている。

科目　美術Ⅱ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
造形的な表現についてより理解を深め、意図に合う表現を創意工夫することができる。	造形的な美しさや表現の工夫、社会の中での美術の働きに意識を巡らせ、制作したり見方を深めることができる。	課題に真摯に向き合い、感性を高め多角的な視点で物事や作品を味わい親しむことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			絵・彫	デ	映						
1学期	単元　ポスター制作 【知技】ポスター史について、視覚伝達技術の進化について理解する。 【思判表】客観的に効果的なコンセプト、効果的な技法を考え工夫することができる。	・映像鑑賞 ・視線をひきつけるテーマと構成 ・配色効果 ・アクリル絵の具の扱い方 ・彩色作業の進め方 ・鑑賞		○		○	・客観的に魅力的なコンセプトを追求している。 ・より良い構図、レイアウトを工夫・追求している。 ・丁寧に効率的な着彩作業を理解し進めることができる。 ・計画的に、かつより良い表現を追求し、作品を完成させることができる。	○	○	○	28
	【主体的】粘り強く計画的により良い表現を追求することができる										
	鑑賞　広告制作者の仕事	・映像鑑賞				○					
2学期	単元　油彩抽象画制作 ・様々な抽象画家の作品の意図や表現の違いを知り、視覚的・造形的に思考する感覚を味わう。 ・画面を壊し展開させていく感覚を味わう。	・抽象画鑑賞（教科書、画集） ・抽象と具象の違いについて考える ・本制作 ・描画技法・材料の工夫 ・制作途中の作品鑑賞	○			○	・作品全体をよく観察し、造形的に調整することができる。 ・諦めずに手を加えたり壊したり、作品を発展展開させて深めていくことができる。 ・時間に見合った厚みのある作品を完成させることができる。	○	○	○	30
	・粘り強くより良い表現を追求することができる。制作時間に見合った密度の濃い作品を完成させることができる。										
3学期	単元　多版多色木版画制作 ・多版多色木版画の技法、手順を理解する。 ・多版多色を活かした版分けを考えることができる。道具の使用法、刷りの加減を工夫追求することができる。	・鑑賞・制作手順の確認 ・アイデアスケッチ、図案描き ・転写・版分け ・彫刻刀の扱い方・彫り ・試し刷り調整 ・本刷り完成 ・鑑賞	○			○	・道具の安全な使い方ができる。 ・多版多色の技法を駆使して意図した表現ができる。 ・技法や材料の良さを理解し、活かした表現を追求できる。	○	○	○	20
	・木版画技法の良さを味わい活かすことができる。										
											合計
											78

年間授業計画

成瀬 高等学校 令和7年度（２学年用） 教科　芸術　　科目 選択書道

教　科： 芸術　　科　目： 選択書道　　単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 教育図書 書Ⅱ ）

教科 芸術　　の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】表現・および解釈に必要な知識と、効果的な技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品について、根拠をもって評価・判断し、味わい深く捉えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、感性を高め、自らいろいろな角度から取り組もうとしている。

科目 選択書道　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性の理解を深め、用具用材の特徴と用筆運筆と関係性を実技を通して体得する。自らの意思に基づいて構想を練り、それを実現するための技能を臨書活動を通して身につける。	作品や書の伝統とその文化的価値を考え、書の美を鑑賞する資質や能力を育てる。体得した知識技能を生かし深い鑑賞力を身につけ、構想に対する表現の工夫や分析的な思考をより深くする。感じ方や考え方の多様性を自覚し、適切な用語で言語化できるようにする。	自身の活動を振り返り見通しを立てながら試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組む姿勢を身に着ける。書の美を感受しながら、生活や社会の中での書や文字の意味や価値を主体的に見出す姿勢を身に着ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			漢仮	漢	仮						
1学期	芸術書道を学習するために書道全般の基礎知識の確認と理解を深める。古典を観察・臨書することで、芸術的視野を広げる。用筆・運筆の理解と文字造形の関連性の理解。隷書の文字造形の法則性の理解・実践。隷書の多様性を知る。芸術書道を学習するために書道全般の基礎知識の確認と理解を深める。	隷書の歴史。 用筆・運筆の理解、基本点画の習得。 臨書 木簡・曹全碑・乙瑛碑・石門頌		○		○	正しい執筆法・用筆法・姿勢の理解と実践。 様々な古典の背景や特色を理解し、的確に表現する。 古典の内容により深く迫ろうとしているか。	○	○	○	12
	篆書の文字造形の法則性を理解・実践。 篆書の多様性を知る。	篆書の基本用筆及び基本点画。 臨書 泰山刻石（小篆）・石鼓文（大篆）・大盂鼎（金文）・甲骨文		○		○	造形をよく観察し、用筆を工夫しているか。 様々な古典の背景や特色を理解し、的確に表現する。 古典の内容により深く迫ろうとしているか。	○	○	○	14
2学期	篆刻を構成する様々な要素について理解する。線質・字形・構成等の要素と書作品への印の表現効果や風趣とのかかわりあいについて理解を深める。篆刻の多様性を知る。	篆刻の歴史。 篆刻の用具用材や奏刀法の理解及び習得。 検字・草稿・布字への理解。鈐印法・印泥の取り扱いの理解及び習得。		○		○	各自の名前の文字の成り立ちへの理解。検字及び印文選択・構成等、印稿作成一連の取り組み。 正しい奏刀法の理解と実践。 正しい鈐印法への理解と実践。篆刻の特色の理解と鑑賞を通して、表現に反映できたか。	○	○	○	16
	古典作品を広く見渡し鑑賞し、日本独自の紙面構成である散らし書きへの理解を深める。 料紙に歌一首創作することで、全体構成を理解習得する。仮名表現の多様性を知る。	変体仮名・連綿への理解と習得。 臨書 蓬莱切・高野切 寸松庵色紙・升色紙・継色紙に代表される散らし書きの理解及び習得。			○	○	造形の観察・用筆の工夫をし、古典の散らし書きを表現に反映できたか。 全体構成を考え、文字の大小・線の太細・墨の潤滑等、効果的な紙面構成ができたか。 他者の作品を鑑賞し、自分の意見を言葉にし発言する。	○	○	○	18
3学期	紙面統一の方向性を考える。 自由な発想と展開を引き出す。 言葉の意味と表現。 芸術の意味を考える。	漢字仮名交じりの書の歴史。漢字仮名交じりによる創作。 漢字とかなの調和を取りつつ、行間・潤渇・文字の大小・太細・落款に気をつけながら半切1/2にまとめる。	○			○	用筆を統一し、変化のある構成を図る。 想像力を働かせ、しっかりと構想を練り、推敲を重ねて個性を発揮する。 全体構成を考え、文字の大小・線の太細・墨の潤滑等、効果的な紙面構成ができたか。制作した作品を見直し、自分の進歩・変化を省みる。	○	○	○	8
	紙面統一の方向性を考える。 自由な発想と展開を引き出す。 言葉の意味と表現。 芸術の意味を考える。	刻字創作。 書体・及び漢字や仮名、漢字仮名交じりなど指定なし。刻字の用具用材や奏刀法の理解及び習得。 草稿・布字(転写)への理解。	○	○	○	○	用筆を統一し、変化のある構成を図る。 想像力を働かせ、しっかりと構想を練り、推敲を重ねて個性を発揮する。 全体構成を考え、文字の大小・線の太細・墨の潤滑等、効果的な紙面構成ができたか。制作した作品を見直し、自分の進歩・変化を省みる。	○	○	○	10
											合計 78

年間授業計画 新様式例

成瀬　高等学校 令和7年度（3学年用） 教科　　芸術　　科目 選択音楽Ⅱ

教　科： 芸術　　科　目： 選択音楽Ⅱ　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 音楽Ⅱ Tutti＋ ）

教科 芸術　　の目標：

【知識及び技能】演奏技術をより高度な知識のもとに確実なものにする。

【思考力、判断力、表現力等】子どもの身体能力や感受性・思考力を考え、ふさわしい表現を考えて実践する。

【学びに向かう力、人間性等】子どもが音楽を通じて成長できるためにどのようなことをすべきか、様々な見地から考えようとする。

科目 選択音楽Ⅱ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・キーボードの基本的演奏技能を定着させる。 ・歌い弾きができるようにする。 ・リズムを正確に表現することができる。	・無理のない指使いについて、自分の手に合わせて考える。 ・子どもの理解力や表現力を高めるような声掛けについて考える。	・子どものイメージが喚起される道筋を知る。 ・子どもの身体感覚とリズム感の育成について考える。 ・子どもの意欲を喚起する教師側の演奏法について考える。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	＜コードネーム＞ ・キーボードにより、コードネームの基本を復習する。 ・様々なコードネームを知る。 ・コードネームに従って伴奏を作る。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○	○	○	○	【知識・技能】 コードネームの基本的な型を知り、自分で作れるようにする。 【思考・判断・表現】 自然な和音進行および配置型について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 基本に忠実に正確に演奏しようとしているかどうか。	○	○	○	4
	＜歌唱＞ ・楽譜やことばを正確に、他人に伝わるよう歌う技術を身に着ける。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 音程や言葉を正確に歌うことができようにする。 【思考・判断・表現】 歌唱の内容にふさわしい歌い方・表現ができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの意欲や理解度を高めるような表現を考えながら塩素しているかどうか。	○	○	○	8
	＜創作＞ ・なめらかなコードネーム進行がひとまとまりのフレーズとなるように考える。 ・基本的なコードネーム進行の上に旋律をつける。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○	○	【知識・技能】 演奏のベースとなるコードネームを正確に理解する。 【思考・判断・表現】 自然なコードネーム進行のパターンをいくつか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 コードネーム進行に合った自然な流れの旋律を作ろうとしているか。	○	○	○	8
	＜ギター＞ ・様々なコードネームを弾きながら歌えるようにする。 ・曲に合ったストローク表現を考える。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末			○	○	【知識・技能】 ギターのコードネームの押さえ方を復習し、確実に演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 曲に合ったストロークや演奏表現はどのようなものか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な表現を何種類か考えられるかどうか。	○	○	○	8
2学期	＜歌唱＞ ・正確に歌うのみならず、顔の表情も考えながら歌う。 ・２人以上で重唱ができるようにする。 ・すぐに歌えるレパートリーを増やす。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 正確な音程・リズムで歌い、相手を会わせられるようにする。 【思考・判断・表現】 曲にふさわしい表現やテンポ、強弱・ニュアンス等を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 表現の根拠が説明できるように考えているか。		○	○	10
	＜器楽・声楽＞ ・今までに培った能力の応用として、楽器または歌唱を選んだ上で、自由曲を演奏する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○	○		○	【知識・技能】 楽譜に書いてあることを正確に再現できるかどうか。 【思考・判断・表現】 曲の全体および各部分の表現について、説得力のある表現を作り出せるかどうか。 【主体的に学習に取り組む態度】 曲全体として説得力のある表現を目指しているか。 。		○	○	22
3学期	＜歌唱・器楽＞ ・歌いながら伴奏し、かつ様々な表情を付加しながら表現する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○	○	【知識・技能】 幼児教育に必要と思われるレパートリーを安定していつでも演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 子どもの立場からみて理解できるかどうかを念頭において表現・演奏する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己満足ではなく、子どもの身体能力や感受性を育てる方向かどうか考える。	○	○	○	6
	＜批評＞ 友人たちの演奏を公表する	・授業者作成教材	○	○	○	○	【知識・技能】 楽譜を見ながら聴くことができる。 【思考・判断・表現】 演奏者の思考を考えながら聴くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 演奏者と聴き手とのよいあり方を考えているかどうか。	○	○	○	12 合計 78

年間授業計画

成瀬　高等学校 令和７年度（３学年用） 教科　芸術　　科目 幼児教育音楽

教　科：　芸術　　科　目：　幼児教育音楽　　単位数：　１　単位

対象学年組：第　３ 学年　１ 組～　７ 組

使用教科書：（ みんなピアノだい好き！　　）

教科　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】楽典の基本・およびキーボードを中心とする楽器の基本的な演奏技能を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】子どもの身体能力や感受性・思考力を考え、ふさわしい表現を考えて実践する。

【学びに向かう力、人間性等】子どもが音楽を通じて成長できるためにどのようなことをすべきか、様々な見地から考えようとする。

科目　幼児教育音楽　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・キーボードの基本的演奏技能を定着させる。 ・歌い弾きができるようにする。 ・リズムを正確に表現することができる。	・無理のない指使いについて、自分の手に合わせて考える。 ・子どもの理解力や表現力を高めるような声掛けについて考える。	・子どものイメージが喚起される道筋を知る。 ・子どもの身体感覚とリズム感の育成について考える。 ・子どもの意欲を喚起する教師側の演奏法について考える。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			歌	器	創						
1学期	＜キーボード＞ ・楽譜の基本的な読み方を知る。 ・キーボードの基本的な奏法を知る。 ・キーボードと楽譜の位置関係について正確に知る。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○		○	【知識・技能】 キーボードの基本的な奏法を知り、自分でできるようにする。 【思考・判断・表現】 他人の指の動きを見て、自然な動きかどうか判断できるようにする。 左右のバランスを聴きながら演奏できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 基本に忠実に正確に演奏しようとしているかどうか。	○	○	○	8
	＜歌唱＞ ・楽譜やことばを正確に、他人に伝わるよう歌う技術を身に着ける。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 音程や言葉を正確に歌うことができようにする。 【思考・判断・表現】 歌唱の内容にふさわしい歌い方・表現ができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの意欲や理解度を高めるような表現を考えながら塩素しているかどうか。	○	○	○	12
	＜リズム＞ ・基本的なリズムを正確に再現できるようにする。 ・リズムをたたきながら歌ったり弾いたりできるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○	○	【知識・技能】 演奏のベースとなるリズムや拍を正確に感じ、表現できるようにする。 【思考・判断・表現】 子どもにリズム感を身体感覚として感じさせるための方法を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの立場と発達の過程に沿ったリズム表現を考えようとしているかどうか。	○	○	○	4
	＜身体表現＞ ・身体を使って他人とコミュニケーションをとる方法を探る。 ・身体を使ってある具体的な対象を表現する方法を探る。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末			○	○	【知識・技能】 言語を使わず、身体で表現するための基本動作を知る。 【思考・判断・表現】 どうしたら相手に伝わるか、同時にイメージを喚起できるか考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な表現を何種類か考えられるかどうか。	○	○		8
2学期	＜歌唱＞ ・正確に歌うのみならず、顔の表情も考えながら歌う。 ・２人以上で重唱ができるようにする。 ・すぐに歌えるレパートリーを増やす。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○			○	【知識・技能】 正確な音程・リズムで歌い、相手を会わせられるようにする。 【思考・判断・表現】 相手の音と自分の出している音の響き具合や、バランスについて聴いて判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数でまとまった１つの表現を作り出すために考え、努力する。		○	○	10
	＜器楽＞ ・コードネームの原理を学び、コードネーム、およびルート音で伴奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○	○		○	【知識・技能】 キーボードによるコードネームを正確に押さえ、歌いながら演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 正確な音が響いているかどうか判断し、かつ旋律にふさわしい伴奏アレンジを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分や他人の伴奏やメロディーアレンジについて、様々な角度から講評し、考える。		○	○	18
3学期	＜歌唱・器楽＞ ・歌いながら伴奏し、かつ様々な表情を付加しながら表現する。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○	○	【知識・技能】 幼児教育に必要と思われるレパートリーを安定していつでも演奏できるようにする。 【思考・判断・表現】 子どもの立場からみて理解できるかどうかを念頭において表現・演奏する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己満足ではなく、子どもの身体能力や感受性を育てる方向かどうか考える。	○	○	○	6
	＜リズム・身体表現＞ リズム感を子どもが感じられるように、またイメージ力を喚起できるように表現する（擬音語による絵本を使用する）。	・教科書 ・補助教材（絵本） ・ICT ・1人1台端末	○	○	○	○	【知識・技能】 楽譜に書いてある情報を正確に理解し、表現できる。 【思考・判断・表現】 正確なリズムの上に、よりイメージを喚起するようなアレンジや表情を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の構成を考え、全体が一貫の流れをもってストーリー性が感じられるようにする。	○	○	○	12 合計 78

年間授業計画

成瀬 高等学校 令和７年度（３学年用） 教科　芸術　　科目 美術Ⅱ

教　科： 芸術　　科　目： 美術Ⅱ　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 美術２　光村図書 ）

教科　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】表現や鑑賞に必要な知識や、基本的な技能の幅をさらにひろげる。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品・演奏について、客観的に評価・判断し、表現を深めることにつなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組み、味わおうとしている。

科目　美術Ⅱ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
造形的な表現についてより理解を深め、意図に合う表現を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図や創造的な工夫、社会の中での美術の働きに意識を巡らせて主題を生成し、個性豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育む。美術文化に親しみ心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			絵・彫	デ	映						
1学期	単元　校内デッサン制作 ・表現したい内容にふさわしい透視図法を選択できる。 ・自分なりのコンセプトを設定し、明暗のバランスなどを相対的に考えて構図を練ることができる。 ・鉛筆の色味を味わい、質感の違い、空間の表現に実感が出るように工夫して描き込むことができる。 ・画面全体を客観的に見て、バランスを調整し、丁寧に細部まで描き込み、完成できる。	・オリエンテーション ・演習　透視図法 ・本制作　校内デッサン制作	○			○	・自分なりの主題を生成し、透視図法を用いて効果的な構図を練ることができる。 ・表現を創意工夫している。 ・作品を客観的に比較検討し、より良い表現を追求しようとしている。	○	○	○	28
2学期	単元　自由制作 ・自分なりの作品の構想を練り、材料や道具、手順等について計画を立てることができる。 ・自分なりの発想でオリジナル作品の構想を練り、表現を創意工夫することができる。 ・主体的に愛情をもって作品制作に取り組み、より良い表現を追求することができる。	・鑑賞　過去の作品 ・必要なもの、作業の流れなどの調査　　と計画 ・材料、道具などの購入、手配などの準備 ・制作 ・展示作業 ・鑑賞　友人の作品	○	○		○	・作品の構想に合わせて材料、道具、手順などを準備計画し、生かして制作を進めることができる。 ・独自の発想で作品の構想を練り、表現を創意工夫し、推敲を重ねてより良い表現を追求できる。 ・作品に愛情をもって、制作から完成・展示作業まで主体的に丁寧に取り組むことができる。	○	○	○	30
3学期		・展示作業 ・鑑賞　テキスタイル　など	○	○		○		○		○	20
											合計
											78